

1. 2 河川整備の現状と課題

1. 治水の現状と課題

沙流川の治水は昭和 23 年に本格的な河川改修事業に着手、昭和 26 年から改修全体計画の基本調査を実施し、河川工事の基本となる計画高水流量を平取基準点で $3,900\text{m}^3/\text{s}$ とした。この計画に基づき平取、荷菜去場など中流部の市街地の堤防整備から着手され、河積の拡大が図られた。しかし整備途上の昭和 36 年 7 月洪水で家屋全壊 1 戸、半壊 5 戸、流失 20 戸、床上浸水 65 戸、床下浸水 250 戸、氾濫面積 221ha、昭和 37 年 8 月洪水で死者 1 名、負傷者 2 名、家屋全壊 1 戸、半壊 1 戸、流失 4 戸、床上浸水 118 戸、床下浸水 186 戸、氾濫面積 860ha といった被害を受けた。このため、築堤工事が急がれ昭和 40 年までには平取から富川市街地までの右岸の一連地区が暫定断面ながら完了した。

昭和 38 年の改修総体計画、昭和 44 年の工事实施基本計画では、前記の計画を踏襲し、堤防の拡築、新設及び河道の掘削を行って河積を増大するとともに護岸、水制等の工事を行い、河岸の強化を図ってきた。その間、昭和 48 年 8 月に床下浸水 4 戸、浸水面積 29.8ha、昭和 50 年 8 月に死者 1 名、家屋全壊 1 戸、半壊 1 戸、床上浸水 2 戸、床下浸水 58 戸、氾濫面積 68ha といった洪水に見舞われ、一方では平取町、門別町の発展に伴い氾濫区域内の資産の増大が進み、洪水被害は増加の傾向にあった。このことから昭和 53 年 3 月 23 日、沙流川水系工事实施基本計画が改定され、平取基準点の基本高水流量を $5,400\text{m}^3/\text{s}$ 、計画高水流量を $3,900\text{m}^3/\text{s}$ とし、その差 $1,500\text{m}^3/\text{s}$ を二風谷ダム、平取ダムなどの洪水調節施設で調節することにした。

本工事实施基本計画に従い築堤工事を行い流下能力の向上及び河岸の強化を図るとともに、河口閉塞対策として河口導流堤（平成 2 年度完成）、多目的ダム建設の沙流川総合開発事業（二風谷ダムが平成 9 年度完成）などの事業を進めてきた。この結果、直轄管理区間の堤防はヌタツ地区を除きほぼ概成した。

しかし、昭和 56 年 8 月洪水で死者 1 名、負傷者 6 名、家屋全壊 27 戸、半壊 13 戸、床上浸水 176 戸、床下浸水 522 戸、避難世帯 735 世帯といった被害が発生した。また平成 4 年 8 月洪水では、二風谷、富川地区で水位が計画高水位を越えて、水防団が麻袋による必死の水防活動を行った。無堤区間のヌタツ地区では外水が氾濫し、家屋半壊 1 戸、床上浸水 50 戸、床下浸水 83 戸や各所で河岸欠壊、護岸崩壊が発生した。堤防は計画高水位を超えると破堤の危険性が極めて大きくなることから、洪水を計画高水位以下で安全に流下させる対策が必要となっている。また、断面不足の堤防については拡築などの質的強化を図る必要がある。

内水氾濫については、平成 4 年 8 月洪水、平成 9 年 8 月洪水等により門別町富川市街地等で内水被害が生じている。また、現在設置されている樋

門樋管については、老朽化、流下断面不足により治水機能に支障を来すおそれのあるものもある。

沙流川は急流河川であり、水衝部においては低水路の堤防近接箇所や河床の深掘れ等、河床の不安定な区間があり、洪水時に深掘れが進行すると護岸崩壊や堤防欠壊等により甚大な被害が予想される。

近年、計画規模を上回る洪水による災害が全国各地で発生しているが、流域内で人口・資産が集積している門別町や平取町などの市街地において、整備途上段階における施設能力以上の洪水や計画規模を上回るような洪水が発生した場合には甚大な被害が予想される。



写真 1-2-1 昭和 36 年 7 月 26 日洪水
流失した振内橋



写真 1-2-2 昭和 36 年 7 月 26 日洪水
懸命に護岸作業を行う自衛隊員



写真 1-2-3 昭和 37 年 8 月 4 日洪水
平取町沙流川右岸浸水倒壊家屋



写真 1-2-4 昭和 37 年 8 月 4 日洪水
沙流川氾濫による灌漑溝決壊



写真 1-2-5 昭和 56 年 8 月 5 日洪水
沙流川右岸 C 樋門内水氾濫・門別町富川地区



写真 1-2-6 平成 4 年 8 月 9 日洪水
富川市街地付近（右岸）内水氾濫状況

表 1-2-1 治水事業の経緯

年 度	工 事 内 容	治 水 事 業 の 状 況
昭和 2 3	平取市街裏の築堤に着手	
2 7	荷菜去場築堤に着手	
3 2	紫雲古津築堤に着手	
3 4	紫雲古津築堤暫定完成	
3 5	二風谷左岸築堤に着手	
3 6	富川築堤に着手	
3 9	二風谷左岸築堤暫定完成	
4 0	富川築堤暫定完成	
4 2	富川市街築堤完成	
4 3	二風谷右岸築堤に着手	
4 4	一級河川の指定	
4 5	紫雲古津築堤完成	
4 6	工事実施基本計画の策定	
4 7	平取築堤完成	
4 8	二風谷右岸築堤暫定完成	
4 9	富川築堤完成	
5 0	二風谷左岸築堤（上流側）完成	
5 1	河口左岸築堤着手	
5 2	二風谷左岸築堤（下流側）完成	
5 3	沙流川総合開発事業実施計画調査に着手	
5 4	河口左岸築堤概成	
5 5	河口右岸築堤に着手	
5 6	河口左岸築堤完成	
5 7	河口右岸築堤概成	
5 8	工事実施基本計画の改定	
5 9	河口導流堤着手	
6 0	長知内築堤に着手	
6 1	沙流川総合開発事業建設に着手	
6 2	富川築堤（市街裏）着手	
6 3	長知内築堤完成	
6 4	荷負築堤（支川額平川）の着手、完成	
6 5	富川築堤（市街裏）完成	
平成元年	河川環境整備事業（門別町）に着手	
2	河川環境管理基本計画の策定	
3	河口導流堤完成	
4	河口右岸築堤完成	
5	沙流導水路着手	
6	河口左岸・右岸耐震築堤完成	
7	沙流導水路完成	
8	二風谷ダム完成	
9	沙流頭首工撤去	
1 0	沙流川水系河川整備基本方針策定	
1 1		
1 2		
1 3		
1 4		
1 5		
1 6		
1 7		
1 8		
1 9		
2 0		
2 1		
2 2		
2 3		
2 4		
2 5		
2 6		
2 7		
2 8		
2 9		
3 0		
3 1		
3 2		
3 3		
3 4		
3 5		
3 6		
3 7		
3 8		
3 9		
4 0		
4 1		
4 2		
4 3		
4 4		
4 5		
4 6		
4 7		
4 8		
4 9		
5 0		
5 1		
5 2		
5 3		
5 4		
5 5		
5 6		
5 7		
5 8		
5 9		
6 0		
6 1		
6 2		
6 3		
6 4		
6 5		
6 6		
6 7		
6 8		
6 9		
7 0		
7 1		
7 2		
7 3		
7 4		
7 5		
7 6		
7 7		
7 8		
7 9		
8 0		
8 1		
8 2		
8 3		
8 4		
8 5		
8 6		
8 7		
8 8		
8 9		
9 0		
9 1		
9 2		
9 3		
9 4		
9 5		
9 6		
9 7		
9 8		
9 9		
1 0 0		

2. 河川の利用及び河川環境の現状と課題

沙流川の水利用は、農業用水の 13.24m³/s をはじめ水道用水、鉱工業用水、その他と合わせて 13.67 m³/s である。また、発電には岩知志発電所他 4カ所で最大 89.6 m³/s が利用されている。河川水の利用については、許可水利権に基づいた適正な取水が行われている。

渇水については、平成 3 年 2 月から 3 月にかけて平取町の上水道において取水制限を行う事態が発生している。

今後の流域の発展のために必要な水の安定供給を図りつつ、健全な水循環系の保全、合理的な水利用等に配慮する必要がある。

流水の正常な機能を維持するための水量については、二風谷ダム単独では近年 20 年間の流量データから、年間 10 日以上確保できない年が 11 年ある。

水質については良好で環境基準を満足しており、全国一級河川で上位に位置する清澄な河川である。今後も現状の良好な水質を継承していくことが求められている。

河川空間の利用では、沙流川流域は軽種馬の生産・育成が基幹産業の一つであることから、高水敷が採草放牧地として広く利用されている。また、門別町、平取町の都市区域においては、うるおいとやすらぎを得られる貴重なオープンスペースとして、広場・公園・緑地などが整備され、スポーツ、散策、魚釣り等多目的に利用され、また、河川空間を利用したイベントとしては、富川地区のししゃもまつりや門別夏まつり、二風谷地区の二風谷湖水まつりやチプサンケ（アイヌ文化の舟おろしの儀式）等が実施されている。

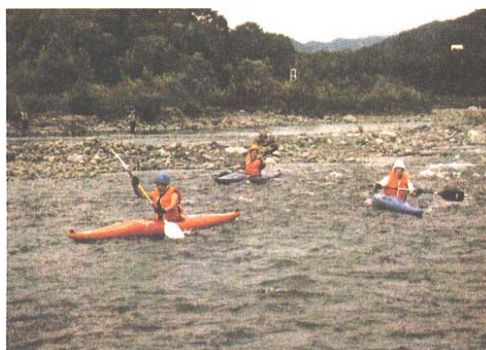


写真 1-2-7 河川空間の利用状況

河川空間の適正な利用については、歴史・文化を踏まえた地域づくりと地域連携に向けて、河川整備に対する要望を踏まえ、関係自治体等と協力して地域住民とパートナーシップの関係を構築する必要がある。

多くの人々に利用されている沙流川であるが、近年では沙流川の流域に伝わる文化の継承に配慮しつつ豊かな自然環境とのふれあいや体験学習の場としての整備及び保全の要望が強くなっている。



写真 1-2-8 高水敷利用状況



沙流川本川における直轄管理区間上流端は、にぶたに湖の貯水池上流端となる。にぶたに湖の右岸側は山地となっており、ミズナラ、エゾイタヤ、シナノキの広葉樹林が広く分布し、水際にはツルヨシ、ヨシ、ヤナギ類等の群落が見られる。これに対しダムの上流側は競走馬の牧場のほか人家や国道等でひらけており、水際以外に樹木は比較的少ない。ダム湖周辺では、ハヤブサ、クマタカなどの猛禽類の他、ヒグマ、イイズナ等の哺乳類、エゾサンショウウオなどの両生類も見られる。湛水の始まった平成 8 年以降は、新たな水面ができたためマガモやカルガモなどの水鳥が多く確認されている。また、魚類ではエゾウグイ、サクラマス(ヤマメ) やサケ等もみられる。二風谷ダムの建設では、魚道の設置によって魚類の移動経路を確保するとともに、裸地化した湖岸を自然石で被覆し植樹を施すなど河川環境保全に配慮した整備が図られてきた。

ダム下流から平取町の平取大橋付近までは、山地の森林が沙流川の右岸あるいは左岸まで連続し、その河岸にはヤナギ高木や低木群落が優占



写真 1-2-9 にぶたに湖右岸
(貯砂ダム下流)



写真 1-2-10 二風谷ダム貯砂ダム
下流のアオサギ



写真 1-2-11 二風谷ダム魚道
をのぼるサケ

する。鳥類ではダム下流の中洲にアオサギの営巣が確認されるほか、ヒシクイやオオハクチョウ等も確認され多様なガンカモ類等の渡りの中継地点となっている。魚類ではフクドジョウやウグイ類等道内の河川で一般的に見られる種が多く確認されている。

平取大橋から下流は、右岸は堤防の連続する平取町の田園地帯から門別町富川市街地そして河口へと続き、左岸は、段丘上は競走馬の牧場等に広く利

用される間を山地から連続する樹林が河岸まで連なり、富川付近から下流河口までは有堤区間となり国道付近の市街地を除き、その堤内外とも広く採草放牧地に利用されている。高水敷は大部分が採草放牧地に利用されており、河道内樹木は一部の高水敷と無堤部の河岸、安定した洲に存在し、その多くはヤナギ低木林となっている。鳥類では荷菜大橋下流でオオハクチョウが確認されるほか、河口付近はカモメ類の大規模な生息地となっ



写真 1-2-12 平取町荷菜
(左岸の河畔林)



写真 1-2-13 シシャモ
(写真提供/鷗川町)

ている。魚類では、サケやサクラマスが遡上するほか、ヤツメ類、フナ類、ドジョウも確認されている。河口から約5kmの区間は北海道の太平洋沿岸域に生息し、産卵期にのみ河川に遡上するシシャモの産卵床になっているが、昭和40年代の前半をピークにその数は減少している。

支川額平川中流部宿主別川合流点付近は、周囲を森林に囲まれる中、河川周辺の台地上に肉牛の牧場が広がっている。また、付近には広さ約15haと日本一の広さを誇る野生のスズラン群生地がある。鳥類ではクマタカ、ハヤブサ、オオタカなどの猛禽類が確認されている。また、魚類ではエゾウグイやフクドジョウのほかサクラマスも確認されている。



写真 1-2-14
黒毛和牛(平取町営牧野)

沙流川は、このように豊かな自然を有していることから、治水・利水との調和を図りつつ、多様な動植物の生息環境の保全を地域の人々から求められている。特にシシャモについては食文化として地域を代表する資源であり、その自然産卵床区間を保全するため、産卵に適した流量、河床高、河床材料の保全が課題である。また、沙流川下流部では田畑や牧場・市街地が広がり堤内側の樹林が比較的少なく、河道内の樹木がそこに生息する動植物にとってその生活の上で様々な役割を果たしている。しかし、この河道内樹木は流下能力の阻害要因とな



写真 1-2-15 スズラン鑑賞会

っている。地域の人々からは河川環境保全のため、河道内樹木の保全を求められており、その保全を含めた適正な管理が課題である。